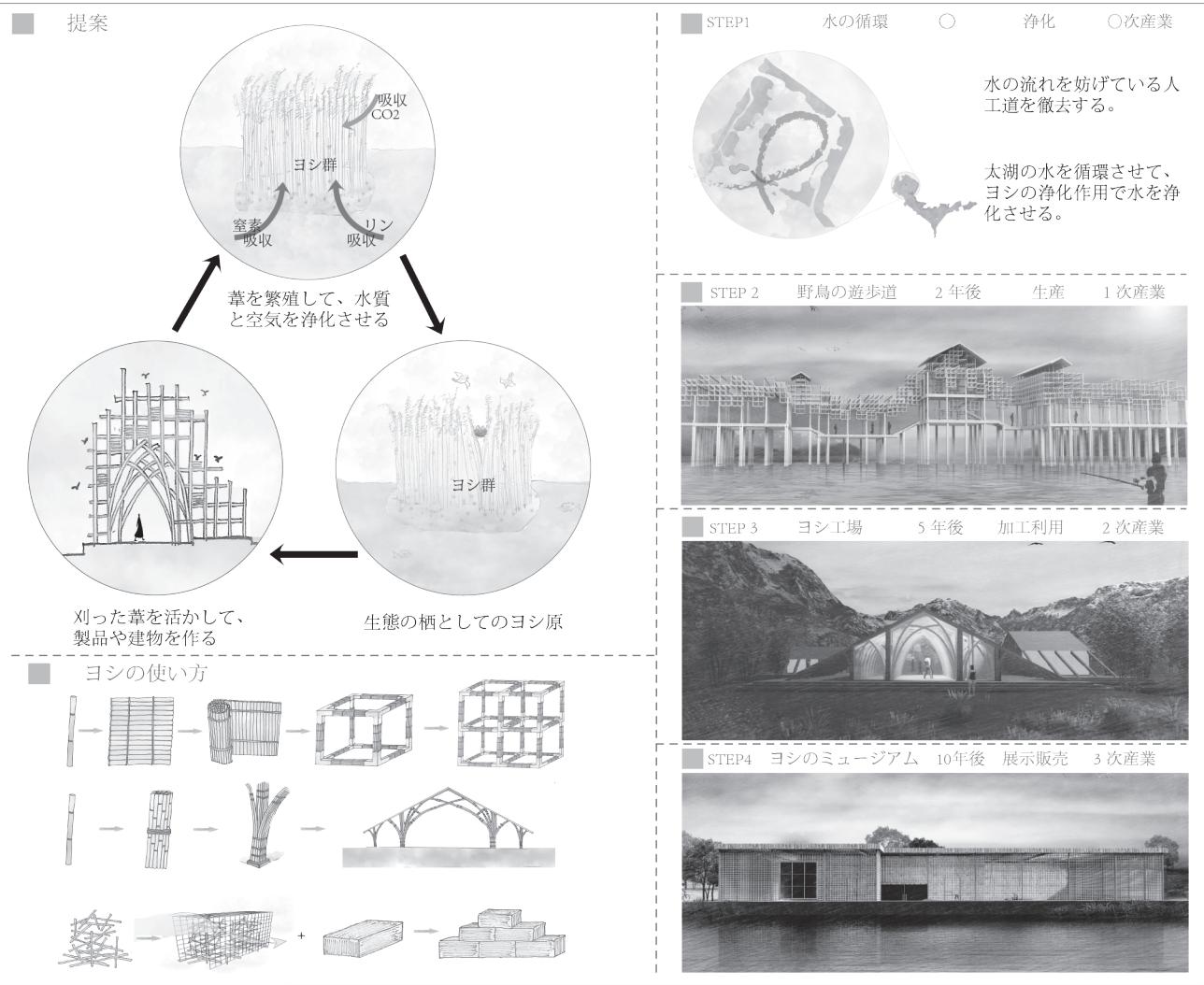


(様式-2)

タイトル 太湖再生--葦のリサイクルによる持続可能な環境と産業の構築--

明治大学 建築学科
名前 丁 佳蓉



急激な都市化・工業化が進んでいて、太湖水系の河川は汚染が進み、現在の太湖は湖周辺の水質汚染がきわめて深刻になっている。

今回は湖の「水」と「生き物」について、この二つの課題とし、これらの問題に人々が共に生きていくこと「協生」のきっかけになるような提案を考えた。

まずは「水」。葦の水質浄化作用を利用する水質改善を取り組む。建物の一部分は葦を数本束ねた葦柱を使用し、刈った葦を無駄なく、定期的に使用するサイクルで葦を有効活用し、葦の水質浄化の効果を持続するというシステム。

次は「生き物」。生き物や人の棲み処になるような休憩場。太湖を利用する人の憩いの空間、そして太湖に住む生き物も訪ねるような空間を作り、人々が太湖の生き物に関心を持つきっかけを作るコンセプトである。

この二つの課題をクリアすることで豊かな太湖、そして魚米の郷無錫の肩書きを守ることに繋げていきたい。

